

秋まき小麦の「なまぐさ黒穂病」に注意！

秋まき小麦の生育は、平年に比べて1週間程度早く推移しています。

「なまぐさ黒穂病」は、出穂後から症状が顕著となるため、発生に注意が必要です。

これまでのところ名寄地区では未発生ですが、上川管内では旭川以南の地域で発生しており、毎年、新たな地区での発生が確認されています。

発生に気づかないまま、収穫が開始されると、発病子実による収穫物の汚染や、麦稈の持ち出しによる発生拡大の原因となります。あらかじめ、ほ場の周縁や道路からの入り口、防除通路等を観察し、下記のような症状が見られないかをご確認下さい。



正常な穂



なまぐさ黒穂病を発症した穂

○「なまぐさ黒穂病」が疑われる症状

① 1株の中で、草丈が低く、穂の外観が毛羽立ち、黒く変色している穂がある（左図）。

② 発病している穂では、子実が黒色の胞子で充満され、異臭（生臭いにおい）がする。

○発生が確認されたほ場の傾向

① 小麦を連作している（連作年数が長いほど発生している事例が多い）。

② 排水性が不良である。

③ 取り付け口周辺での発生が多い（内部で発生している事例もあり）。

万が一、疑わしい症状を確認された場合は、JAもしくは普及センターまでご連絡下さい。

JA本所農産課 01655-3-2521

JA営農センター営農課 01654-3-4307

農業改良普及センター 01654-2-4524